

次の文章を読み、「近年におけるわが国の人口減少の特徴」について要約しなさい。次に、地方で(自然減に社会減が加わって)生じている急激な人口減少が、わが国のフードシステム(食糧の生産や加工、流通、消費など)に及ぼす負の影響について考察し、さらに、それらに対する解決策を、自由に提案しなさい。文字数は、要約、考察、解決策をあわせて八〇〇字程度とします。

『日本人86万人減 過去最大

国内1億156万人 46道府県減少』

総務省は24日、住民基本台帳に基づく今年1月1日現在の国内の人口を発表した。日本人は1億2156万1801人で、前年から86万1237人(0・70%)減った。ピークの2009年から15年連続の減少で、数、割合ともに過去最大の減少幅となった。

日本人の出生者数は72万9367人で過去最少を更新し、死亡者数は過去最多の157万9727人だった。出生数が死亡数を下回る「自然減」は85万360人と16年連続で拡大した。

日本人の人口を都道府県別で見ると、東京都が前年比0・03%増と3年ぶりに増加したが、他の46道府県では減った。減少率は秋田県の1・83%が最大で、青森県1・72%、岩手県1・61%が続いた。

転入者数が転出者数を上回る「社会増」となったのは6道府県で、東京都(5万5167人)に次いで神奈川県、埼玉県、千葉県、大阪府、福岡県の順だった。

一方、外国人の人口は332万3374人と、過去最多を更新した。新型コロナウイルス禍では一時的に減少したものの、昨年から再び増加に転じ、国外からの転入者数は60万5863人と最多だった。

日本人と外国人を合わせた総人口は1億2488万5175人で、前年から53万1702人(0・42%)の減少となった。